

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                      |            |             |
|---------|----------------------|------------|-------------|
| 事業所番号   | 2670200217           |            |             |
| 法人名     | 株式会社 ウエルネット          |            |             |
| 事業所名    | 洛和グループホーム 西ノ京 2階ユニット |            |             |
| 所在地     | 京都市中京区西ノ京冷泉町140      |            |             |
| 自己評価作成日 | 平成29年8月13日           | 評価結果市町村受理日 | 平成29年12月13日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |  |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 |  |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                                    |  |  |
|-------|------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター           |  |  |
| 所在地   | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル |  |  |
| 訪問調査日 | 平成29年10月2日                         |  |  |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の異動も比較的少なく落ち着いた状態で介助に当たることが出来る様になっているが、マンネリ化してきている部分も見られるため、毎月のカンファレンスを中心に初心を忘れないことを意識付け、利用者と共に何か(食事作り、洗濯物干しやたたむ等)を取組むことを継続している。又、地域との関係性においても、積極的に個人の店で買物することを継続することで、地域にとけこめるように配慮している。地域運営推進会議の出席や地域の催物への案内も特別なことではなく、当たり前のように声掛けあえるようになってきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の中で暮らすことをホーム理念に謳い、地域の商店の利用や民生委員から情報をもらい地域のサロンやカフェ、祭りや運動会など利用者の暮らしの延長上に地域があるように気軽に地域に出かけ交流を深めています。日々の中では調理や縫物などに力を発揮してもらい、月2回のフラワーアレンジメントやお茶会などを行い、利用者のペースで過ごす中にも充実した楽しみの持てる暮らしを支援しています。また職員は離職が少なく良好な協力関係を築いており、振り返りシートを用いて利用者の思いを汲み取ったり、食事の後に利用者と共にゆっくりお茶を楽しむ時間は一人ひとりの思いを知る機会にもなり、思いに添った暮らしや個別の外出支援などに繋がっています。また家族の来訪時には積極的に声をかけ話を聞いたり、家族との外食の機会もあり良好な信頼関係を築いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   | 項目 |   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)     | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)           | ○                     | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | ○                     | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                 | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○                     | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)  | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 66 | 職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○                     | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:28) | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  |    |   |                       |   |

自己評価および外部評価結果

| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
|                    |     |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |  |  |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている  | カンファレンスで理念について話し合い取り組んでいる。   | ホームの移転を機に職員間で話し合い地域に浸透したホーム作りを目指し、利用者が地域の中でその人らしく暮らすこと等を謳った独自の理念を掲げています。入職時には法人理念と共にホーム理念に込められた意味を伝え共有に努めています。日々理念を念頭に置きその人らしい暮らしの延長上に地域があるように日々散歩や買い物、地域行事等へ積極的に参加し実践に繋がっています。                    |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している  | 地蔵盆への参加や保育所との交流会を行っている。又、近隣の店とは、休みの日でも鰻を焼いて配達して貰ったり、電気製品の部品も型番を見に気軽にホームに来て貰っている。 | 町内会に入り、地蔵盆や運動会、毎月開かれるサロンやカフェに参加したり、保育園児との継続した交流や小学生から手紙と共に花や野菜の苗が届き育てています。併設デイサービスでのハンドベルや楽器演奏などのボランティア来訪時は一緒に楽しみ、夏祭りや納涼祭などは合同で開催し交流しています。また地域の方から手押し車の寄付が届いたり、地域の商店を積極的に利用しており、地域に根付いた交流が広がっています。 |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている  | 地域運営推進会議を通して取り組むようにしている。   |  |                   |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている                                     | 現在は報告に留まっているが、参加者からは「自分事でもあるので、参加できてよかった。」といった声も聞かれる。                            | 会議は利用者や家族、複数の民生委員、地域包括支援センター職員などの参加の下、隔月に開催しています。ホームや利用者の状況、行事予定や報告、ヒヤリハットや事故などは状況を詳しく報告し、質疑応答や意見交換をしています。認知症についての質問に答えたり、認知症カフェなどの地域情報をもらい参加するなどサービスの向上や地域交流に繋がる有意義な会議となっています。                    |                   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる   | 移転前からの継続で、事業所会議に参加し取り組むようにしている。  | 分からないことは随時電話で問い合わせたり、行政から調査等が届いた際は協力しています。また研修先で担当者と共に学ぶ機会があったり、研修や担当者が出席する地域運営推進会議にはできる限り参加し、協力関係を築くよう努めています。   |                   |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束行っていない。重要事項説明書にても、ご説明している。また、組織的にも研修を計画的に行い取り組んでいる。                          | 法人による身体拘束や人権、虐待等の研修では寸劇や事例検討で具体的に学んでいます。フロアや玄関は日中は施錠せず、利用者が自由に行動できるよう職員間で見守り、外に行きたい方にはできるだけ付き添っています。また家族の了解の下、夜間のみ安全に付き添うためのセンサーマットを使用している方は毎月カンファレンスで必要性検討しています。                                  |                   |

洛和グループホーム西ノ京(2階)

| 自己 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
|    |     |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている     | 組織的にも研修を計画的に行い、全職員周知出来、実行できるよう取り組んでいる。                               |   |                   |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現入居者様にも、1名後見人を利用されているかたがおられたり、以前の入居者様にもおられたりで、理解と活用を深められている。         |   |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                      | 契約は、GH担当相談員と管理者が行い、十分な説明を読み合わせしながら、かつ補足も加え行っている。                     |   |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                  | 施設内にご意見箱を設置している。(ただし、利用はない)プラスα毎年アンケートを実地し、意見の収集と、改善を行っていている。        | 利用者の希望は関わりの中で聞き、暮らしの中で思いに添うよう反映しています。家族の来訪時には管理者や職員から話しかけ意見を言いやすい関係を築きながら要望や様々な相談も受けています。家族からは個別の要望が多く個々に対応しています。また法人によるアンケート調査も行われており、得られた意見はカンファレンスを開き検討し、集計結果や対応については家族に報告をしています。                  |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                   | 定期的カンファレンスを行っている。また、必要時には随時行っている。事業所外においても、組織的に交流等行っている(全体会議、全体研修等)。 | 職員の意見は月2回のユニット毎のカンファレンスや日々の業務の中、定期的な個別面談や職員アンケートなどで聞いています。カンファレンスでは事前に意見を募ったり、アンケートを基に面談を行い意見や希望を聞き反映しています。職員は個別ケアなど多くの意見を出しており、日々のケアに繋がったり、年間行事などの担当を決め主体的に取り組めるよう任せています。また懇親会を開き職員間の横の繋がりが大切にしています。 |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている   | 年に2回、自己申告等にて個別の話し合いを行っている。   |   |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている      | 事業所内、組織内研修に加え、GH協議会、また、京都市よりの研修に参加したりしている(認知症サポーターリーダー研修等)。          |   |                   |

洛和グループホーム西ノ京(2階)

| 自己                         | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
|                            |     |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14                         |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 行事や認知症サポーター講座等、他の事業所へボランティアに行ったり、来てもらったりし、交流を図る中で、取り組みを進めている。 |   |                   |
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |   |   |                   |
| 15                         |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている           | 入居前には相談員が基本的には窓口となり、ご要望等お聞きしている。(入居前アセスメントシートにて)              |   |                   |
| 16                         |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている                      | 入居前には相談員が基本的には窓口となり、ご要望等お聞きしている。(入居前アセスメントシートにて)              |   |                   |
| 17                         |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている                  | 入居前には、入居前の介護支援専門員等の関係者などご本人・ご家族の様子をお聞きしたりしている。(相談員が窓口)        |   |                   |
| 18                         |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                                  | 食事作り等、日々の生活を共に行うことで、良い関係づくりに努めている。                            |   |                   |
| 19                         |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている                   | 日々の生活状態を口頭だけでなく、活動の記録を写真に撮り説明したり、家族と共に支援できるように取り組むようにしている。    |   |                   |
| 20                         | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                               | 個別外出にて馴染みの場所等への支援を行っている。また、ご家族以外、ご友人等のご面会にも対応している。            | 友人や親戚等の来訪時は居室やソファ、食卓等で一緒に過ごしたり、誕生会をする家族もあり、利用者と一緒に自由に過ごせるよう配慮をしています。個別レクの日を利用して親族の食事会に付き添ったり、馴染みのレストランや嵐山、祇園祭への外出、自宅や住んでいた町に行き友人に会う事もあり希望を聞きながら支援しています。また家族の協力を得て法事や通っていた美容院に行く方もいます。 |                   |

洛和グループホーム西ノ京(2階)

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21                                 |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                                   | 誕生日会にて皆でお祝いしたり、フラワーアレンジメントにて共同活動したり、無理のない範囲で良好な関係の構築援助行っている。 |  |                   |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | サービスが切れる前は、関係者と今後の話し合いの場を持ったりして、今後心配のないよう援助している。             |  |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |  |  |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | ケアプラン作成の際には、必ず思いや意向をお聞きし、それを活かしたプラン作成を行っている。                 | 入居時は法人担当者が自宅や入院先などを訪問し本人や家族の希望、これまでの生活歴、身体状況などの情報を聞き、得られた情報をもとに意向の把握に繋がっています。入居後は家族の面会毎に話を聞いたり、把握の困難な場合は全職員が記入した振り返りシートを基にカンファレンスで話し合い利用者の思いの把握に繋がっています。 |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | センター方式の活用にて生活歴の把握を行っている。                                     |  |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 日々のケアより、24時間シートを作成したり、一人一人の1日の様子等の把握・理解に努め、援助している。           |  |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | モニタリングを行うと共に毎月のカンファレンスを利用し話し合うようにしている。                       | 介護計画作成時にはアセスメントを行い、希望記入用紙を用いて事前に把握した利用者や家族の希望、医師や看護師の意見を基にカンファレンスで話し合い作成しています。計画の実施状況は日々介護日誌に記録し、6ヶ月毎のモニタリング、評価に繋げ、利用者の状態に変化がない場合は1年毎に介護計画を見直しています。      |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 介護日誌の活用、また必要時にはプランの変更を行い、援助している。                             |  |                   |

洛和グループホーム西ノ京(2階)

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|---|--|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる                            | 施設内に、往診医・歯科医・衛生士・マッサージ師など、多くの職種が入り援助している。  |   |                   |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 開所間もないため、まずは地域と交流することを第一に取り組んでいる。  |   |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 家族及び本人の意向により往診又は受診対応している。又、往診時、家族と主治医が直接話し合えるようにも支援している。   | 入居時にかかりつけ医を継続できることを伝えています。かかりつけ医や専門医への受診は職員が付き添い、受診結果などはその都度家族に報告しています。協力医は月2回の定期往診の為、利用者の状態の変化に合わせて協力医から随時の往診を受けられる医師を紹介しています。また急な体調の変化時は訪問看護師に24時間相談できる体制を整えています。訪問歯科による口腔ケアや治療を受けている方もいます。 |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 協力訪問看護ステーションと協働しており、必要時は、24時間連絡・相談できる体制をとっている。   |   |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 法人相談員及び病院相談員と密に連絡をとるようにし、入院時は早期退院ができるように取り組んでいる。   |   |                   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 入居前の契約の際に指針の説明を行っている。実際の活動には現在つながっていないが、必要時には実践できるよう、組織内でシステムの構築も行っている(他事業所の経過・結果報告等にて、また組織内の報告会にて)。 | 入居時に重度化対応指針を基に条件が整えば支援できる事等ホームの対応について説明しています。状態が変化した際は家族や協力医、訪問看護師、職員が話し合い家族の希望を大切に方針を決めています。これまでに看取りに近い支援の経験があり、頻回に往診できる医師へ変更し、できるだけ長くホームで過ごせるよう取り組んでいます。職員に対しては看取りの研修を行っています。               |                   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 組織的に全職員対象に普通救命講習を行っている。  |   |                   |

洛和グループホーム西ノ京(2階)

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
|                                  |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35                               | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている           | 定期的に訓練を実施している。   | 年2回消防署の協力を得て主に夜間を想定した訓練を行い、初期消火や通報、避難誘導、水消火器の訓練などを実施しています。また地域の防災マップを用意し2ヶ月に1回の頻度で独自にスプリンクラーの扱い方や避難経路の確認などを行っています。運営推進会議で利用者の状況を参加者に伝え協力を依頼すると共に地域の訓練の情報などがあれば知らせてもらうよう依頼しています。                   |                   |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |  |   |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 組織的な研修と伝達研修にて全職員が理解でき実践できるように取り組んでいる。                                      | 年に1度接遇やマナーに関する研修を実施すると共に力量評価の面談時にも日頃の対応を振り返っています。利用者を尊重した言葉遣いや目線を合わせる事、話を最後まで聞く事などを基本とし、利用者の反応も見ながら個々に合わせた対応に努めています。問題のある発言などがあれば職員間で互いに注意しています。また苗字以外の呼称で呼ぶ時は家族と話し合い決めています。                      |                   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 日々の生活や活動の中から、本人の思いや希望が出せるように働きかけている。                                       |   |                   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人一人のペースや状態に合わせた日課や取り組みを行うと共に、日々の会話からその日の行動を決めるように取り組んでいる。                 |   |                   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 毎日の着替えにおいて、色々な衣類を身につけて頂くようにしている。   |   |                   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 食事作りの段階から、少しづつでも一緒に行う、又は目の前で調理するようにしている。又、食器拭きやテーブル拭きなども出来る限り一緒に行うようにしている。 | 利用者と一緒に買い物に行ったり、生協から届いた食材を見ながら利用者の好みに配慮し献立を決めています。ゴマすりや野菜切り、盛り付けなど利用者と一緒に行くことを大切に、職員と共に談笑しながらゆっくり食事を摂っています。土用のウナギやピザ、寿司を注文したり、敬老の日は家族と一緒にレストランでの会食、また個別や少人数で寿司やバイキングなどの外食にも出かけており、食事を楽しんでもらっています。 |                   |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 10時、3時の他にも散歩後はもちろんのこと、随時、水分を摂って貰うようにしている。食事は、入居以降増えている。                    |   |                   |

洛和グループホーム西ノ京(2階)

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                  | 毎食後のケアに加え、必要者には、衛生士のケア、またそこから、歯科医師の治療と早期につなげられるよう援助している。                        |   |                   |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている  | 状況把握を行い、現在、トイレでの排泄は全員ができています。又、布パンツに替えた利用者も状態を維持している。                           | 排泄表を作り個々の排泄状況や間隔を把握し、排泄のサインなども見ながらトイレで排泄できるよう支援をしています。カンファレンスや日々の中で支援方法や排泄用品を随時検討し、変更があれば全職員に伝え情報を共有しています。意識して水分を摂り、立ち上がり動作の回復と共に排泄の意思表示ができるようになった方もおり、自立に向けた支援に取り組んでいます。     |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                  | 野菜を中心とした食事や、ヨーグルト、牛乳など便通に良いものを日々の食事に加え、取り組むようにしている。                             |   |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 週2回の最低基準にとらわれることなく援助している。又、時間帯やタイミングも本人の気分に合わせ声かけするようにしている。                     | 入浴は通常週に2回午後から入ってもらい、連日入る方もおり本人の希望や思いを大切に支援しています。一人ずつ湯を入れ替え、重度の方も体調に配慮しながら全介助の方も湯舟に浸かってもらっています。また石鹸やシャンプー、入浴剤などは複数用意し色や香りを楽しんでもらったり、入浴を断る方には入りやすい時間帯など工夫しながら無理なく入れるよう支援をしています。 |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している                   | 個々に室温調整を行い、日中も本人の表情に注意し、体に負担のないように活動したり、昼寝をしたりし支援している。                          |   |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている              | 薬剤情報のファイルを作り、いつでも全職員が閲覧できるようにしている。又、薬の変更があった場合は、申し送りノートに記載し、全員が情報を共有できるようにしている。 |   |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活暦を把握すると共に、家族や本人との会話の中から楽しみ等を見つけるように努めている。                                     |   |                   |



洛和グループホーム西ノ京(2階)

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|--|--|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している                      | 日々の買物や散歩の他、個別外出の機会をもうけ、本人や家族と行き先を相談し、外出するようにしている。                  | 気候の良い時は日々散歩や近隣のスーパーへの買い物などに一緒に出掛けています。年間を通して初詣や桜の花見、植物園にバラや菊を見に行ったり、敬老会は家族に声をかけ会食に出かけています。また個別や少人数での希望に添った外出の機会を多く設けたり、地藏盆などの祭りや毎月地域で行われるサロンやカフェなどに積極的に出かけています。                       |                   |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 現在お金を自分で管理されている方はおられないが、その方の能力を考え、必要であれば所持等してもらえよう援助していく体制はある。     |   |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 現在、本人が手紙を書く、電話をかけるといったことはないが、送られてきた手紙等を見てもらったりしている。                |   |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 月2回のフラワーアレンジメントを中心に季節の花を飾ったり、日めくりのカレンダーをおいたりしている。                  | 玄関やフロア内は利用者の趣味の作品や利用者と共に大文字などのちぎり絵の作品や花を活け季節感のある空間作りをしています。またフロア毎の利用者の過ごし方に合わせてテーブルやソファの配置を決め居心地よく過ごせるよう工夫をしています。毎朝換気し加湿器や空気清浄機を置き、室温の管理は利用者に聞いたり、体が冷えていないか触れて確認しながら快適に過ごせるよう調整しています。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | TVを2台設置にて、またそれに合わせてソファを配置したり、またいつもの席を一人一人のご希望にそって配置したりしている。        |   |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 馴染みの家具を用意してもらっている。また、生活と共に必要なものなどが出てきた際はそのつど相談している(ポータブルトイレや布団など)。 | 居室には馴染物ある物を持ち込んでもらう伝え、筆筒等の家具や使い慣れたドレッサー、大切な仏壇等自由に持ち込んでもらっています。カーペットを敷き、ステレオや手芸の道具を持ち込んだり、好きな絵を飾る方、布団を敷いて休む方等、生活感のあるその人らしい居室となっています。また体調の変化に合わせて家族と相談しながら過ごしやすいよう配置を変更することもあります。       |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | アセスメントの際、出来ること・出来ないことシートを活用し、見直し等を行っていかうとしている。                     |   |                   |